

## 初演上演プログラム

沢木 順 ソロミュージカル

# ロートレック

歌い、踊る! モンマルトルの巨匠

ソロミュージカル「YAKUMO」に続く沢木 順 ソロミュージカル第二弾!  
19世紀末のパリで、闇に照らし出された人々の心を描いたロートレックの生涯!

出演・沢木 順  
演奏・松川 裕 (ピアノ)  
企画・監修・沢木 順  
構成・演出・さらだたまこ  
演出・脚色・毛利 巨宏 (少年共中)  
音楽・玉麻 尚一  
振付師・多胡 寿伯子

内幸町ホール (JR新橋駅下車5分)

2009年11月16日[月] - 19日[木]

料金: 5,000円 (全席指定)

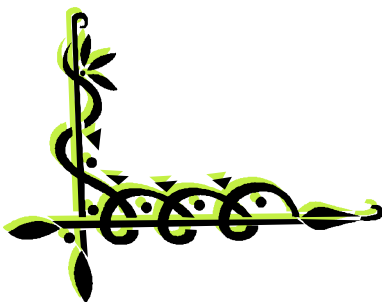
11/16日(月) 19:00  
17日(火) 14:00 19:00  
18日(水) 14:00 19:00  
19日(木) 14:00 19:00

お問い合わせ: <http://sawaki.net/> sawakijun1013b@ezweb.ne.jp  
0467-44-4401 090-9365-4708 090-7832-3512

期間: 2009年11月16日(月)~19日(木)

会場: 内幸町ホール

主催: オフィスサワキ  
共催: 内幸町ホール  
後援: 産経新聞社





## ごあいさつ



本日はようこそ、沢木順 ソロミュージカル『ロートレック』にお越しくださいました。  
日本の話芸とブロードウェイミュージカルの融合により、新しいジャンルのソロミュージカルを作りたいという発想をもとに2004年より『YAKUMO』を上演してきました。  
そしてついに、第2弾の新作『ロートレック』の幕を開けることができました。  
ロートレックの作品は世界中の人々に愛され、その人生も美術展、評伝、映画などでよく知られています。本作品は、多くの人々によって伝えられてきたロートレックの人生を、歌と語りで構成したミュージカルです。  
企画にあたって私はロートレックの人生に私自身の人生を重ねてみました。  
伝えられるところ、脚に障害を持ち画家となったロートレックは、由緒ある伯爵家にふさわしい後継ぎを望んだ父親と互いを認めることなく確執が続いたとされていますが、果たして真相はどうだったのか？  
私の父は作曲家でした。若い頃事故に遭い脚に障害を受けましたが、それを克服し、逞しく、魅力に溢れ、人生を謳歌したまさに芸術家魂の持ち主でした。  
私は俳優の道を選びましたが、芸術家として父を仰ぎ見、畏れ、葛藤する青春時代を送ったものでした。今、あの頃の父の年齢に近づき、そんな折りに、ロートレックの人生と向き合い、作品を作ることで、亡き父への思いを形にすることができました。  
もちろん、舞台の上のロートレックは、お客様の心には、何か別の違うことを問いかけていくかも知れません。ともあれ、最後まで楽しんでいただけたら幸いです。  
どうぞ、私が演じるロートレックの世界にしばしおつきあい下さい。

沢木順

プロフィール：鎌倉育ち。早稲田大学で演劇を学び、東宝ミュージカル『ファンタスティックス』の主演マット役に抜擢。その後『ラ・マンチャの男』他の出演を経て、1975年劇団四季入団。『ジーザス・クライスト＝スーパースター』ユダ役、『コーラスライン』ポビー役、『キャッツ』ラムタムタガー役、『オペラ座の怪人』ファントム役、『ユタと不思議な仲間たち』、『エビータ』他、数多くのミュージカル舞台に立ち、退団後も様々なミュージカル、コンサートで活躍中。  
父は『あざみの歌』『さくら貝の歌』などで知られる作曲家・八洲秀章。



# 『YAKUMO』に続く第2弾！ 沢木順 ソロミュージカル 『ロートレック』

菊田一夫に見いだされ、  
ミュージカル界に入り、  
その後劇団四季において『オペラ座の怪人』  
『美女と野獣』などで主演した沢木順。  
長年のキャリアを生かし、  
さらに、日本の話芸と  
ブロードウェイミュージカルの融合により、  
新しいジャンルのソロミュージカルを作りたい！  
この発想をもとに2004年から5年間に渡って上演された  
『YAKUMO』が生まれた。  
たった一人で老若男女すべての出演者を演じ分け、  
得意の歌でドラマを語るスタイル。それがソロミュージカル。  
そして、ソロミュージカルというジャンルを  
確立するべく、第2弾として新たに世に問うのが  
新作『ロートレック』。  
今回は、ロートレック自身から彼の両親、愛した女性、  
親友だった画家のゴッホ、娼婦など12人を沢木順が演じ分ける。



『YAKUMO』の上演歴  
2004年10月20～24日 青山円形劇場  
2005年9月24日 鎌倉芸術館 大ホール  
2005年10月21日 北九州芸術劇場  
2006年3月8、9日 名古屋市青少年文化センター  
2007年7月1日 逗子市文化プラザ  
2007年7月7日 福島県国見町観月台文化センター  
2007年7月14、15日 新神戸オリエンタル劇場  
2007年10月11日 早稲田大学大隈講堂改装柿落とし公演  
2007年11月23日 松江市 島根県民会館中ホール  
2008年2月22日 大阪中央公会堂大ホール



## 『ロートレック』あらすじ

南フランス、トゥールーズ地方の領主としてフランス屈指の家柄を誇ったロートレック伯爵家に生まれたアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック。フランス革命後も、ロートレック家の名声は絶えることなく、アンリは、父アルフォンスの愛情と期待を一身に受けて育った。

だが、幼少から虚弱体質で、ふとした弾みで転倒が続き、両脚を骨折してしまう。結果、成長が止まり、障害が残った。アンリの体質は名家に多い近親結婚を繰り返したことが原因といわれる。アンリの両親はいとこ同士だった。

父が望むように、騎士道精神を貫く伯爵家のあととりにはなれないと、アンリは唯一の心のよりどころであった絵画の世界に活路を見出し、パリに出てプロの画家を目指す。

時は、19世紀末。舞台はパリ・モンマルトル。世紀末のパリは、激動の時代で先が見えない混沌とした退廃ムードが漂っていた。が、そんな中で新しいうねりが起こり、モンマルトルを中心とする芸術活動にも新しい風が吹いていた。モンマルトルにオープンした巨大エンターテインメント『ムーラン・ルーージュ』のポスターで、アンリは一躍注目を浴びる。彼の作風は、古典的な伝統芸術を否定しながらも、同時代の印象派とも異なる独特な世界を表現。とりわけ挫折や絶望を抱えた不幸な生い立ちの社会的弱者の心に常に寄り添い、闇に照らされた心を忠実に描くのだった。

だが、あまりに芸術家的な放蕩生活がたたって、過度のアルコールと梅毒によって命を縮めた。物語は、人生の幕を閉じなるとする、アンリの回想から始まる。

## 主な登場人物

■アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック(1864年11月24日～1901年9月9日)

フランス屈指の名門ロートレック伯爵家の嫡男として南仏アルビの城に生まれるが、虚弱体質のため両脚を骨折、成長が止まる。パリに出て画家を志し、自由に生きようとする。

■父 アルフォンス:(1838年～1913年)

十字軍遠征の時代から南仏を治め、革命後もなお繁栄する名門の伯爵家であることが唯一の誇り。父にとって強い男の代名詞は馬とハヤブサを自在に操り狩猟が得意な騎士。

■母 アデル:(1841年～1930年)

夫とはいとこ同士。息子に惜しめない愛を注ぐが、夫とは別居し、ボルドーのマルロメ城を購入して暮らす。

■マドレーヌ:(?～1882年)

アンリの母方の従姉。淡い初恋の相手。

■フェルナン・コルモン画伯:(1845年～1924年)

エコール・デ・ボザール(官立美術学校)出身。技巧優先の保守的な作風を守り、栄誉あるレジオンドヌール勲章を授与。

■マリー・シャルレ:(不詳)

絵のモデルでロートレックの初体験の相手とされる女性。

■アリスティード・ブリュアン:(1851年～1925年)

音楽酒場『ル・ミルリトン』を開いた歌手。歯に衣着せぬ露骨な歌詞で世を諷刺。雑誌も発行し文芸活動にも一石を投じた。

■ラ・グリュ(1870年～1929年)

ムーラン・ルーージュのスター。ロートレックのポスターで有名に。

■ヴィンセント・ファン・ゴッホ:(1853年～1890年)

オランダ出身の画家、コルモン画伯のアトリエで学び、ロートレックと知り合う。古典絵画に疑問を持ち新しい表現に次第に目覚めていく。ロートレックとは感性が共通していることを確認しあった。だがやがてパリを去り、アルルに移り自ら命を絶った。

■シュザンヌ・ヴァラドン(1865年～1938年)

ロートレックが愛し続けた女性。貧しい家に生まれ、パリで洗濯女をしながら、サーカスのスターを目指す。が、ブランコから落下する事故に遭い挫折。その後ルノワールら画家達のモデルとなり、自らも絵を描いた。父親のわからない息子を産んだ。その息子はモーリス・ユトリロとなる。(残念ながら、ロートレックはユトリロの父ではない……らしい)

ムーラン・ルーージュ:1889年、パリのモンマルトルにオープンしたキャバレー。

アブサン:にがよもぎのリキュール。幻覚を引き起こすなど精神に支障をきたすとして製造・販売は禁止されたが、現在は飲酒に適う基準のものが製造され流通するようになった。

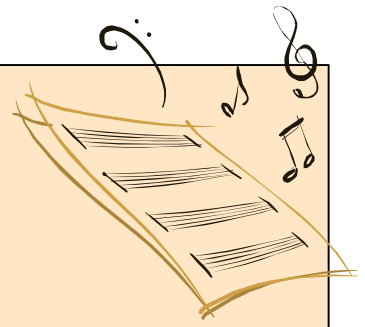
## 曲目

### Act 1

- M 1 『鏡の中の僕』
- M 2 『ロートレック家の帝王学』
- M 3 『どうして、僕だけ?』
- M 4 『母の祈り』
- M 5 『愛しのマドレーヌ』
- M 6 『僕が僕として生きる』
- M 7 『絵の中で 僕は自由』
- M 8 『伝統絵画は素晴らしい』
- M 9 『マリー・シャルレ』
- M10 『僕の描きたい絵』
- M11 『印象派バンザイ!』
- M12 『夜のモンマルトル』
- M13 『ブリュアンの歌』
- M14 『心の闇に光を当てよ!』

### Act 2

- M15 『フレンチカンカン』
- M16 『ムーラン・ルージュ』
- M17 『ブラボー! 浮世絵』
- M18 『シュザンヌ』
- M19 『アブサンの歌』
- M20 『ゴッホに捧げる歌』
- M21 『娼婦の館』
- M22 『父の哀しみ』
- M23 『時間が欲しい』
- M24 『それがすべて』



**演奏 松川裕 (Pf)**

**ピアニスト・ヴォーカリスト**

劇団四季35周年記念オーディションに合格し、

『オペラ座の怪人』で沢木順と共演。

ソロミュージカル『YAKUMO』でも、ピアノ伴奏を担当。

2004春 2005 夏 ゴッホ晩年の地、フランス古城にてコンサート。

# ロートレックと絵画の世界

パリの街でふと立ち寄ったカフェで、よく見かけるポスター。そんな中に必ずといっていいほど、ロートレックの作品が飾られています。観光土産の絵はがきや、コースターの図柄にも、ロートレックの絵は定番といえるほどモチーフに使われています。死後100年以上たっても、人気の衰えを知らないロートレック。日本でも大変人気があり、2008年はサントリー美術館で、そして2009年はまさに今、Bunkamuraザ・ミュージアムでロートレックの作品展が開かれています。

ロートレックは、モンマルトルにアトリエを構え、彼独自の画風で、モンマルトルに生きるいろいろな人物を描きました。特に、ロートレックが気に入ったのは、ムーラン・ルージュの踊り子や歌手、モンマルトルの娼婦たちでした。パリの街に張られたポスターはたちまち剥がされるほどの人気を呼び、モデルとなった人物は、ロートレックのおかげで、後生にまでその名を残すことになりました。

人気の秘密は、今まで誰もみたこともない画風。構図、色づかい……。一体全体、どこから、こんな発想がわいたのかということ、それは1867年パリの万博以来、ブームとなったジャポニズム、つまり日本文化の影響です。とりわけロートレックは浮世絵にヒントを見出しました。画学生だったロートレックは、小遣い稼ぎに、東洋美術のコレクションを整理するアルバイトをして、浮世絵と出会い大いにインスパイアされたと伝えられています。そんな、ロートレックの画風は、権威主義的な芸術アカデミーの巨匠を敵に回すものでした。アカデミーの巨匠達は改革を好まない。だから、ドガや、ルノアールやモネなどの印象派も、目の敵にされたのです。ロートレックの画風は、印象派ともひと味違う彼唯一の表現法でした。それは、どんな高尚な美術学校でも学べない、まさに、モンマルトルの人生の大学で学び、見いだしたものだったのではないのでしょうか？ そういう意味において、ロートレックは一匹狼、孤高の画伯であり、ある種、画壇のアナーキストであったと言えます。



有名なロートレックのポスター：左からMoulin Rouge - La Goulue(ムーラン・ルージュのラ・グリユー)〔1891〕  
Divan japonais (ディヴァン・ジャポネ)〔1892-1893〕、Jane Avril dans les Jardins de Paris (ジャルダンドパリの  
ジャンヌ・アヴリル)〔1893〕、Troupe de Mlle Églantine(エグランティーヌ嬢一座)〔1896〕、Reine de joie (快楽  
の女王)〔1892〕、Ambassadeurs: Aristide Bruant(アンバサドールのアリスティード・ブリュアン)〔1892〕

# ロートレックの人生 そしてソロミュージカルの展望

ロートレックは37歳の誕生日を目前として一生を閉じました。短いと言えばあまりに短い生涯ですが、その人生は実に濃厚で、多彩でした。彼の生い立ちから37年間のエピソードを拾っていくだけで、何巻も続く分厚い本になってしまう！なぜ、そんなに濃厚で多彩なのかというと、ひとつにはロートレック自身があまりに魅力的な人物であるからです。魅力溢れる人物には、たくさん人間が惹かれ集まって来る！ロートレックと関わった人物もそれぞれに、ドラマチックな人生を抱えた人間たちばかりでした。ロートレックの家族や仲が良かった人たち。また幼少の頃からずっと交流のあった友人たち。そしてパリで交流した多くの画家たち、ロートレックのポスターで一躍有名になったムーラン・ルージュのスターたち、それからロートレックが愛してやまなかったモンマルトルの娼婦たち。あるいはロートレックが晩年交流した文芸美術サロンの仲間たち……。それだけではありません。船旅で出会って一目惚れした女性もいました。そう、ロートレックは意外にも恋多き人生を送っているのです。

本作を構築するにあたって、初稿の段階ではこの人物とのエピソードも描きたい、あの人物もはずせない……と欲張っているうちに台本はどんどん分厚くなり、上演時間はとも2時間では収まらない長大作に！けれどもソロミュージカルでは、あまりに複雑すぎると、ほどけないもつれた糸をもてあますような消化不良を起こしてしまいます。本作の初演台本は、「初めてロートレックという人物を知る人が、目を閉じて聴いていても、わかるように」という基本路線を決め、そぎ落とす作業に徹しました。逆に言えば、ロートレックの物語は、本作に加えてたくさんの外伝を描くこともできるのです。

今回の初演は7回公演ですが、少なくとも100回のロングラン再演を目指しています。全国巡業はもちろん、海外公演、当然、パリ公演やロートレックの故郷のアルビや、人生の最後を閉じた母親の別荘『シャトー・マルロメ』での公演など夢描いています。『シャトー・マルロメ』はボルドーにあり、現在でもぶどう園を営み、そのシャトー名のワインを飲むことができます。ロートレックの料理本があるほどロートレックは食通でパーティ好きでしたから、趣向を凝らしたディナーと本作のコラボレーションなども実現できたらそれはそれで楽しいのではないかと、いくらでも構想は広がっていきます。

また、演者を変えて、いろいろな歌い手さん、役者さんに演じていただけたらとも考えています。女性が演じることもありでしょう。ソロミュージカルは、魅力的な試みを拒みません。ロートレックが、多くの魅力的な友人・知人に恵まれたように、本作、ソロミュージカル『ロートレック』も多くの才能ある方々と出会って、コラボレーションしながら、ずっと長く長く親しまれる名作に育てていきたいと願っています。

ロートレックの人生を知るための参考資料(たくさんありすぎるので、ほんの一部を紹介します)

- 宗左近著『ロートレック』(新潮美術文庫)。ロートレックを知る上でおすすめの入門書。
- 高津道昭著『ロートレックの謎を解く』(新潮選書)。ロートレックの作風と画家の実像に迫った一冊
- 『ロートレックの料理法』(美術公論社)。ロートレックのエピキュリアンぶりをおおいに堪能できる一冊。表紙には『快樂の女王』が使われている。
- 映画『赤い風車』(原題: Moulin Rouge) [1952/アメリカ] ジョン・ヒューストン監督作品。名優ホセ・ファーラーがロートレックそっくりりに扮した上に、父親の二役を演じ分ける。ロートレックの人生を総花的に描いた作品。恋愛面ではマリー・シャルレとの出会いと別れに重点を置き描かれている。
- 映画『葡萄酒色の人生』(原題: Lautrec) [1999/フランス] ロジェ・プランション監督作品。ロートレックを演じたレジス・ロワイエがなんとも魅力的。シュザンヌとの激しい恋愛を徹底的に描いた作品。



稽古風景：JPスタジオにて

## 沢木順 ソロミュージカル『ロートレック』の作家陣

本作『ロートレック』は、演じる沢木順のオリジナルプロデュース作品で、企画と原案は彼自身によるもの。そのコンセプトに賛同・共感した作家陣とがっちりタッグを組んで、ロートレックの人生と世界観を、歌と語りで綴り、ステージと観客の心に新たな世界を紡ぎ出す。

### 構成・作詞

#### さらだたまこ

『料理バンザイ!』、『おしゃれ』、『大希林』など放送作家として活動。モントルー・ハイビジョン展に出品した『芸術家の食卓』でロートレックの人生と出会う。著書は『パラサイトシングル』など多数。ミュージカルは『はだかの王様』(青山劇場)、OLミュージカル『ザ・ピンクスポッツ』(博品館)など。『読んで演じたいくなるゲキの本』(幻冬舎刊)にも書き下ろし2作収録。毎週木曜深夜2時、『カフェ・ラ・テ』(RFラジオ日本)でMCとして出演。

### 演出・脚色

#### 毛利亘宏

多くの人気劇団を輩出した早稲田大学演劇研究会のアンサンブル劇団として『少年社中』を旗揚げ。エンターテイメント系カンパニーの作・演出家として人気を集めている。少年社中以外の活動でも、ミュージカルからヒーローショーまでジャンルを選ばない活躍を見せる。09年3月にはグローブ座主宰のプロデュース公演で、少年社中の上演作品『カゴツルベ』を関ジャニ∞の安田章大主演で青山劇場にて上演。その作・演出家に抜擢され、大好評を博す。

### 作曲

#### 玉麻尚一

アニメ、CM活動を経て、これまでに100本以上のミュージカル音楽を手掛ける。作曲、編曲の他、作詞、歌唱指導など。今年と来年にかけて上演の舞台では『天翔ける風に(TSミュージカルファンデーション)』、『叛逆児(主演・中村獅童)』、『ファニーガール(主演・春野寿美礼)』、『ロックミュージカル・BLEACH』、『蜘蛛女のキス』など。沢木順ソロミュージカル第1弾『YAKUMO』にも音楽を提供。ソロミュージカルに連続しての関わりとなる。

### STAFF

企画・原案: 沢木順

構成・作詞: さらだたまこ

演出・脚色: 毛利亘宏(少年社中)

作曲: 玉麻尚一

振付協力: 多胡寿伯子

美術: 山沢玉宏

照明: 岡崎宗貴

音響: 実吉英一(実吉サウンドデザイン)

舞台監督: 笠井隆行

宣伝美術: 武田和香

写真: 崔健三

広報: 笹木敏信・笹木環

制作: 山川泉(創樹社)

Special Thanks to: 横井昭一郎

製作・著作: オフィスサワキ

本作は、ロングラン公演を目指しています。  
再演に関しての、あらゆる企画のご提案も歓迎いたします。

お問い合わせ先

オフィスサワキ

Tel & Fax 0467-44-4401

Tel 090-9368-4708

sawki jun1013b@ezweb. ne. jp

<http://sawaki.net/>

(株)創樹社 山川泉

Tel 090-7832-3812

sohjusha3499@yahoo. co. jp